

学校教育ビジョン 【学校教育目標】自ら考え行動し、多様な価値観を受け入れ、他を思いやり、共に未来を創る児童生徒の育成

〔めざす学校像〕

- ・子どもが通いたい学校
- ・保護者や地域が通わせたい学校
- ・教職員の働きがいのある学校

〔めざす児童生徒像〕

- ・考え行動し、よりよく学ぶ子
- ・仲間と共に成長する子
- ・思いやりと感謝の心を持つ子
- ・未来を生き抜く力を持つ子

〔めざす教師像〕

- ・信頼される教師
- ・工夫する教師
- ・行動する教師
- ・組織を大切にする教師

【重点目標】

- ・自律した学びを育てるための組織的な授業改善
- ・児童生徒の人間関係を形成し、自己実現に向かう特別活動の充実
- ・一人ひとりを伸ばし、誰一人取り残さない学校づくり
- ・よりよい子どもを育てるための家庭、地域との連携

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果 (中間)	判定結果 (最終)	今後の改善策
①教育課程・学習指導	子どもに委ねる学び3.0実現のため、自立した学びになるためのねらいを重視するとともに、協働的な学びの場を設定するために、教科のねらいを明確にする。	子どもを主役にした授業改善を推進し、様々な場面で自分の考えを発表したり、記述したりする力の育成を図る。	【企画部】 教務主任	<前期課程> 児童に委ねる学びを意識した授業に各教員が取り組んできた。昨年度から継続して、子どもに委ねる授業の中で「2文80文字」で考えをまとめる取り組みを行う。	【成果指標】 すべての教育課程で、「2文80文字」の取り組みを意識した授業改善の結果、児童に学年相当の思考判断表現力が身につけている。	「思考判断表現」分野の平均点が A：80%以上 B：75%以上 C：70%以上 D：70%未満	国語科・算数科 単元末テストの 思考判断表現の 平均点			
				<後期課程> 生徒に委ねる学びを推進する上で、生徒に自分の考えを様々な方法で表現させるということに意識的に取り組む必要がある。	【成果指標】 授業で表現方法を工夫する場面を取り入れ、生徒自身に様々な方法で表現することができたと実感させることができた。	授業中、自分の考えをいろいろな方法で表現するようにしていると答えた生徒の平均が A：80%以上 B：75%以上 C：70%以上 D：70%未満	生徒アンケート			
		自律した学びになるためのねらい・教科のねらいについて、学校研究を通して明確にする。	【研究・学習指導部】 研究主任	<前期課程> 単元のねらいを意識した単元設計を行うことができてきているが、主体的に学ぶ児童とあまり主体的に学べない児童の二極化が見られる。	【成果指標】 児童が学びたくなるようになり、導入、課題設定、学習内容などを通して、児童が主体的に学ぼうとしている。	授業では挑戦と失敗を繰り返しながら、問いや課題の解決に取り組んでいると答えた児童の平均が A：80%以上 B：75%以上 C：70%以上 D：70%未満	児童アンケート (ScTN)			
②生徒指導 ※いじめの未然防止	学校全体でいじめの未然防止に努め、安全・安心な学級づくりを行う。	「生徒指導は授業から」を合言葉に、子ども主体の学びの集団をつくる。また、いじめを見逃さないよう、組織的な初期対応を徹底する。	【生徒理解部】 生徒指導 主事	<前期課程> 生徒指導の4つの視点を意識した見取りや声掛けを行ってきた。協働的な学びに価値を感じられない児童が見られた。	【成果指標】 児童は多様な価値観を受け入れ、認め合い、支え合っている。	授業では自分が必要な時に必要な仲間と協力しながら学んでいるという項目の点数が A：80%以上 B：75%以上 C：70%以上 D：70%未満	児童アンケート (ScTN)			
				<後期課程> 生徒指導の4つの視点を意識した見取りや声掛けを行ってきた。今まで以上に授業や行事を通して、学年を超えた交流を深め、学びの集団作りを推進していく。	【成果指標】 生徒は学びの集団として、対話的に学習に取り組もうとしている。	グループや班で学んでいて、メンバーの関係がうまくいかなかったとしても、協力し合える方法を自分たちなりに考えて、全員で学習をやり遂げていると答えた生徒が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	生徒アンケート (ScTN)			
③キャリア教育・進路指導	9年間の成長を見据えた前後期課程の連携を図り、将来に向かって希望や夢や目標をもって生きる意欲や態度を形成する。	中学生卒業をゴールに見据え、自己のキャリア形成をはかるためにキャリアパスポートでの振り返りを行う。	【研究・学習指導部】 進路指導	<前期課程> キャリアパスポートの活用を行事の振り返りを中心に実施することに加えて、自己理解や自分や友達の良いところ見つけをするなど自己理解の機会を増やしている。	【成果指標】 キャリア教育の取組後の振り返りを行うことで、児童の自己肯定感を高めることができた。	自分にはよいところがあると答えた児童の割合が A：80%以上 B：75%以上 C：70%以上 D：70%未満	児童アンケート			
				<後期課程> 行事などを通して自分や周りの成長を見つけてきたことや各学年で将来の生き方を考える取り組みができたことで、自分の将来に関心を持つ生徒が増えた。	【成果指標】 系統的な学習を通して、自己にふさわしい将来の生き方について考えることができた。	自分の将来について考えることができたことと答えた生徒が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	生徒アンケート			

